

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成24年 7月 25日	
愛知県知事 殿	
提出者 太平工業株式会社	
住所 東京都千代田区丸の内2-5-2	
氏名 嶋 宏	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 03-6860-6600	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	太平工業株式会社 東海支店
事業場の所在地	愛知県東海市東海町5-3 新日鐵構内
計画期間	平成24年4月1日から平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	54.7億 (平成24年3月31日現在)
③従業員数	4,972人 (平成24年3月31日現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>産業廃棄物発生フロー)</p> <p>旧建築物解体→がれき類 (コンクリート塊)、金属くず、木くず、紙くず ガラスくず及び陶磁器くず、混合物 (安定型) 特定有害石綿</p> <p>建設工事→がれき類 (コンクリート塊)、金属くず、木くず、 機械工事・電気工事 ガラスくず及び陶磁器くず (石膏ボード)、 廃プラスチック</p> <p>土木工事→基礎工事 がれき類 (コンクリート塊) 汚泥 (無機性汚泥)</p>

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 23 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	排 出 量	6, 4 4 4 t	4 8 9 t
	(これまでに実施した取組) ※発生量については、受注により増減が大きく、単純に比較することは出来ない ※再生利用量や中間処理による減量をさらに進める。 ※最終処分量の減量に努める。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	排 出 量	6, 4 0 0 t	4 5 0 t
	(今後実施する予定の取り組み) ※ 工法の改善を行う (工場加工・組立・塗装 現場据え付けとする) ※ 資材・材料はロス率を少なく発注する。 ※ 分別を細かく分別する。 ※ 処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別の可能な、混合物については、出来る限り分別を行う。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ※金属くず、木くず、アスファルト・コンクリート破片、ロックウール、化粧吸音板、空缶ALC板等再生可能な品目については、分別を徹底する。 ※社員・協力業者の生活系廃棄物 (生ゴミ、ジュース管、新聞等の一般廃棄物) は工事から排出される廃棄物と分別する。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 23 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	全処理委託量	6,444 t	489 t
	優良認定処理業者への処理委託量	6,444 t	489 t
	再生利用業者への処理委託量	6,380 t	484 t
	認定熱回収業者への処理委託量	64 t	5 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	64 t	5 t
	(これまでに実施した取組)		

		【目標】	
		産業廃棄物の種類	がれき類
②計画	全処理委託量	6,400 t	450 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	6,400 t	450 t
	再生利用業者への 処理委託量	6,367 t	446 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	63 t	4 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	63 t	4 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>※各廃棄物の種別・分別を徹底し最終処分量を削減する。</p> <p>※陶磁器くず・廃プラスチック類・混合物については、再利用方法を検討することで、需要用途を拡大する。</p> <p>※汚泥は、現場にて天日干を行い、十分脱水を行い減量化する。</p> <p>※金属くず、木くず、アスファルト・コンクリート破片、ロックウール、化粧吸音板、空缶 ALC板等再生可能な品目については、分別を徹底する。</p> <p>※社員・協力業者の生活系廃棄物（生ゴミ、ジュース管、新聞等の一般廃棄物）は工事から排出される廃棄物と分別する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。